

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (中学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

鹿骨中学校

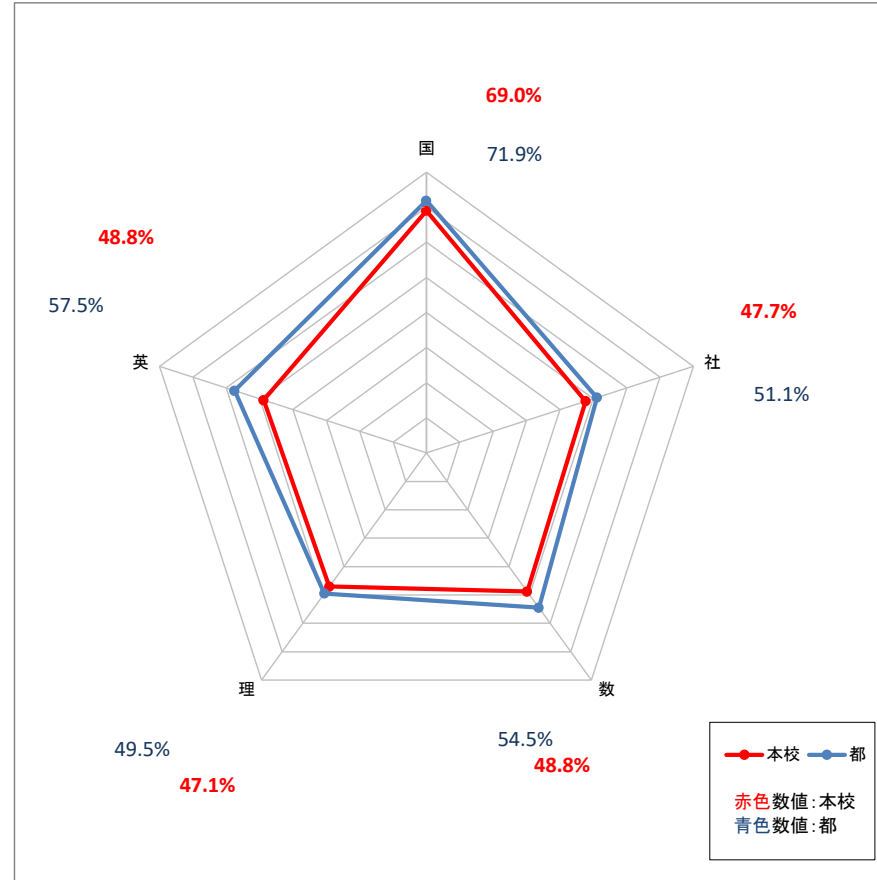
国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	74.8%	58.9%	79.3%	69.1%	71.9%
本校	75.1%	56.9%	77.3%	64.1%	69.0%
都との差	0.3	-2.0	-2.0	-5.0	-2.9

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解	
東京都	48.7%	61.9%	41.1%	51.1%
本校	43.2%	60.3%	38.5%	47.7%
都との差	-5.5	-1.6	-2.6	-3.4

数学	教科の観点			教科の合計
	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	
東京都	31.4%	62.4%	63.3%	54.5%
本校	24.6%	57.8%	56.6%	48.8%
都との差	-6.8	-4.6	-6.7	-5.7

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	43.9%	60.2%	47.4%	49.5%
本校	40.3%	61.1%	44.1%	47.1%
都との差	-3.6	0.9	-3.3	-2.4

英語	教科の観点			教科の合計
	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
東京都	46.1%	62.4%	59.2%	57.5%
本校	37.6%	55.6%	46.3%	48.8%
都との差	-8.5	-6.8	-12.9	-8.7



《都との比較にみる本校の状況》

【国語】話す・聞く能力以外の能力に関してはどれも都平均を下回っているが、中でも「言語についての知識・理解・技能」が-5ポイントと大きく下回っている。この結果から本校の生徒は、問題の解き方や答え方の導き方には慣れているが、言語に関する知識が純粋に不足しているといえる。  
 【社会】全般的に都平均を下回っている。特に「社会的な思考・判断・表現」で-5.5ポイントとなっている。  
 授業中の課題や定期考査においても、自分の言葉で説明したり、根拠を明確に示して論じたりすることが苦手な生徒が多い。  
 【数学】数学的な見方や考え方を問う問題や図形の知識・理解に関する問題などで、都平均を下回っている。「式の計算」「1次方程式」「式の变形」などの数学的な技能を問う問題ではやや上回っている。  
 【理科】観察・実験の技能の面では都平均を超えているが、それ以外はすべて下回っている。読み解く力の不足が科学的な思考・表現の低さにもつながっている。  
 【英語】全般的に都平均を下回っており、特に「知識・理解」の能力に課題がある。

《授業改善のポイント》

【国語】授業の中で、教材やその時期にかかわる文法や漢字、慣用語、ことわざ、古典単語に興味をもたせる話をしたり、辞書を用いた意味調べをしたり、漢字テストの回数や内容を充実させたりする。また、読書をさせる際に新書などの論理的な文章が書いてある本や「名作」を中心とした、比較的会話文の少ない文学作品を推奨していく。  
 【社会】資料の読み取りの際に、考えの根拠となるポイントを示して説明する活動を増やす。4人班活動など、自分の意見を他者にわかりやすく伝え、一方で自分以外の意見に耳を傾けるという活動を授業内でできる限り取り入れる。  
 【数学】直観的、機能的、類推的に推論する力や演繹的に推論する力を養い、問題解決に役立てる機会や振り返って考察する機会を設ける。  
 【理科】情報を取り出し、比較・関連付けて読み取る力を向上させるために、実験後の考察をグループ活動にする。基本となる知識を生徒一人ひとりに定着させたりできるような授業を心掛ける。  
 【英語】全般的に基礎力向上のため、単語テストを定期的に行う、生徒に取り組みの目標を立てさせるなどの授業改善を行う。

《家庭・地域への働きかけ》

【国語】生徒たちが使う言葉だけでは、言語生活はなかなか充実しない。家庭・地域の様々な年代との会話の中でそれぞれの年齢の持つ言葉を聞かせ、また説明することで言語生活を充実させたい。そして、家庭での意思疎通は、できる限り顔を合わせて言葉で直接行おうか、メモで行っていたらと考えると考えている。  
 【社会】ニュースや新聞で取り上げられる様々な話題について、自分はどう考えるか、自分ならどうするか、今後の課題や解決策等を家庭で話し合う機会を持ってもらう。  
 【数学】授業中の様子や家庭学習・課題提出の実態を伝えたり、協力を求めたりしてともに生徒の成長を見守っていく。  
 【理科】家庭学習習慣の定着が大切であると考え、小学校、そして保護者との連携をさらに深め、家庭学習の充実を図っていく。また、継続して4人組などのグループによる学び合いを取り入れ、学校公開で保護者・地域に学校で行っている授業についてもっと知ってもらおう。  
 【英語】家庭学習での内容が授業や単語テストと連動するようにし、「家庭学習を頑張れば学力がつく」ことを保護者にも理解してもらい、協力を得たい。